

令和7年度 第2回 スマートシティ実装化支援事業等推進有識者委員会
議事概要

日 時：令和8年3月10日（火）10:00～11:30

場 所：国土交通省(中央合同庁舎2号館 1F共用会議室1)

資料に基づき説明がなされた後、下記の意見交換がなされた。

○意見交換

【令和8年度スマートシティ実装化支援事業の採択方針】

(採択案に対する意見)

- 採択案に異議はない。
- 不採択団体には、平等で丁寧かつ今後のスマートシティ事業につながるようなフィードバックを実施すべき。

(評価基準の改定)

- 評価基準の改定について、応募団体が政策的な意図を理解した上で応募できるようにすることが重要である。
- 官民連携を促進する中心的な団体に関する評価基準の改定は重要であり、関係省庁における取組（第三次国土形成計画における地域生活圏の「地域マネジメント法人」や、デジタル庁主催のモビリティワーキンググループにおける「交通商社」等）との整合性を図ることで、官民連携を通じた地域づくりの価値向上が期待される。

(イノベーション創発の捉え方)

- イノベーション創発を議論する際、科学技術的なイノベーションに留まらず、都市や交通等の社会システムをどのように変化させていくかといった観点を考慮することも重要である。

【スマートシティ実装化支援事業に関する効果検証結果を踏まえた都市局の評価及び考察】

(プロセスに分けた評価)

- 発見、定義、開発、実装のプロセスに分けた評価は分かりやすい。プロセスを分けることで、課題や見直しが必要な点が分かりやすくなる。

(組織のケイパビリティと個別の事業推進)

- 各地域の評価にあたっては、組織のケイパビリティの観点と、個別の事業推進の観点の2つの軸がある。前者はロジックツリーによる評価、後者はロジックモデルによる評価と親和性が高い。また、都市局の支援としても、組織のケイパビリティ強化と個別の事業推進の双方の支援を整理できるとよいのではないかと。

(開発プロセスの整理)

- 開発プロセスにおいて評価の観点の数が多いが、まちづくり、技術、組織等の観点で整理できるのではないか。どのような観点があるか、どのような観点を踏まえて事業を進めていくことが重要であるかを実施主体に伝達できるとよい。

(ロジックツリーの作成・活用)

- ロジックツリーの作成には手間がかかる一方で、実施主体が自ら作成することにより、事業への理解が深まるなどの価値がある。作成することを目的化するのではなく、作成する工程を通じて実施主体が自ら考え、意識を改め取組に反映させることが重要である。
- ロジックツリーの作成に関与した者は内容や構造を理解できるため、ロジックツリーに基づき事業を推進できるようになることが重要である。また、ロジックツリーを戦略として捉えるだけでなく、全体との整合を踏まえつつ個別具体の取組の実行までをバックキャストで整理することが重要である。
- スマートシティの取組も進み、全体の施策との整合・バランス、施策間連携をしっかりと組み立てなければならない段階となっているといえる。そのためロジックツリーの整理及び活用は重要である。

(実施主体間での情報共有)

- 実施主体間でのコミュニケーションの機会を作ることは重要であるため、意見交換会なども実施できるとよい。実施主体が互いに学び合えるような仕組みを導入することも重要である。

(効果検証における定性的な指標の設定)

- 効果検証では定量的な KPI が多く見られたが、取組を推進するにあたっては、「良い意見交換の場が設けられたか」といった定性的でナラティブな指標があってもよいのではないか。

(スマートシティに関して)

- 都市は非線形で複雑なシステムであるため、「全体最適化」を定義・目標とすることの妥当性については、再考の余地がある。施策が進んできた現在、定義については、都市局が施策を展開する観点から見直すことも検討してもよいのではないか。

(地方部へのスマートシティ普及促進)

- 支援地区の全国分布を見ると都市部が多く、北海道・東北や九州・沖縄などの地方部が少ない。地方部への支援のあり方を検討すべきではないか。